

平成29年度科学研究費助成事業の配分について公表しました。

平成29年度の科学研究費助成事業(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)については、主要種目(※)において10万1,247件の新規応募のうち2万5,313件を採択し、継続分と合わせて7万5,563件に対して約2,117億円(直接経費・間接経費の合計)を配分しました。応募件数・配分額いずれも過去最高となっています。

また、学術研究の多様性を支え、裾野を広げていく要となる「基盤研究(C)」や「若手研究(B)」については、前年度と比較して応募件数が大幅増となりましたが、新規採択率(政策目標30%)は約30%を確保しました。

なお、平成29年度から新たに創設した「挑戦的研究」については、その研究種目の趣旨に沿った研究課題を厳選して採択し、応募額を最大限尊重した配分にしました。

(※) 主要種目:科学研究費のうち、「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」(一部を除く)、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的萌芽研究」、「挑戦的研究」、「若手研究」及び「研究活動スタート支援」。

区 分	研究課題数			配分額 (百万円)	1 課題あたりの配分額	
	応募件数 (件)	採択件数 (件)	採択率 (%)		平均 (千円)	最高 (千円)
新規採択のみ	(101,234)	(26,676)	(26.4)	(64,875)	(2,432)	(170,700)
	101,247	25,313	25.0	64,318	2,541	141,500
新規採択+継続分	(150,077)	(75,290)	—	(161,311)	(2,143)	(170,700)
	151,734	75,563		162,825	2,155	172,000

※配分額は直接経費

※()内は前年度を示す。

※基金化した研究種目については、平成29年度の当初計画に対する配分額を計上している。

詳細なデータについては、下記のホームページをご覧ください。

●科学研究費補助金 配分結果

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1296236.htm

審査委員を表彰しました。

日本学術振興会の学術システム研究センターでは、科研費の審査結果の検証を行い、翌年度の審査委員の選考に適切に反映させています。

このたび、平成29年度の審査を行った第1段(書面)審査委員約5,300名の中から有意義な審査意見を付していた審査委員255名を選考し表彰しました。表彰については、本会のホームページ等を通じて公表するとともに賞状を贈呈しました。

●審査委員の表彰

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26_hyosho/index.html

平成30年度ひらめき☆ときめきサイエンスの実施プログラムを募集します。

募集内容、応募方法については、募集要項をご覧ください。

●実施プログラムの企画の募集について

<https://www.jsps.go.jp/hirameki/boshu.html>

募集の概要

I. 事業の目的

- ・我が国の将来を担う児童・生徒を対象として、若者の科学的好奇心を刺激してひらめき、ときめく心の豊かさ
と知的創造性を育むこと
- ・科学研究費助成事業（以下、「科研費」という。）による研究について、その中に含まれる科学の興味深さや面白さを分かりやすく発信すること
- ・上記を踏まえ、学術の文化的価値及び社会的重要性を社会・国民に示し、学術の振興を図ること

II. 応募資格

これまでに、科研費の研究代表者として研究を実施したことがある研究者が所属している機関の長とします。なお、プログラムの企画・実施は、当該研究者が行います。

III. 募集するプログラム

以下の項目をすべて満たすプログラムを募集します。

- 1) 小学5・6年生、中学生及び高校生のいずれかが対象。
- 2) 科研費による研究に関わる基礎的な内容をより分かりやすく伝え、科学に興味を抱けるような企画。
- 3) 機関の長を中心とした組織的な取組。
- 4) 平成30年7月14日～平成31年1月31日の間の開催。



小・中・高校生のための プログラム



K A K E N H I

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、科学研究費助成事業により行われている、研究者個人の独創的・先駆的な学術研究の成果を、全国各地の大学、高等専門学校その他の研究機関において、小学5・6年生、中学生、高校生を対象として、研究者自身が分かりやすく情報発信するプログラムです。

平成28年度には、児童生徒の他引率の保護者・学校教員等を含め9,500名弱の参加がありました。

○平成28年度に実施されたプログラムの事例紹介

『私たちクラゲ研究隊2016 ～生命の始まりと不思議な光を観察しよう～』

出口 竜作（宮城教育大学・教育学部・教授）

顕微鏡を使ってクラゲの観察をしたり、説明を聞いたりして、クラゲの形態・生態・生殖について学びました。



『実際の手術室で学ぶ手術手技トレーニングの体験学習ー将来の外科医を目指して Part 2ー③』

桑野 博行（群馬大学・大学院医学系研究科・教授）

実際に病院で使用されている最新のシミュレーターを用いて模擬手術の体験をすることで、外科学への関心が高まりました。

『素粒子を見る！ーニュートリノ・暗黒物質もみえるかも！？ー』

中村 光廣（名古屋大学・未来材料・システム研究所・教授）

自分で組み立てた実験装置を用いて素粒子の観察や分類を行うことで、研究のおもしろさを味わいました。



平成29年度も、夏休みを中心に、7月下旬から翌年1月末までの間、児童生徒が全国各地の170にわたる大学等の研究室を訪問し、実験やフィールドワークなどを実際に体験して、最先端の研究成果を直に見て・聞き・触れることができる341件の訪問体験型プログラムを用意しています。

また、受講を希望する児童生徒が在学する学校に限らず近隣の学校も含め、学校教員の参観・見学を積極的に受け付けています。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」の詳細は、日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」ホームページをご覧ください。

Q ひら☆とき

検索